

## JSTさくらサイエンスクラブ第5回「インド同窓会」 同窓生がモディ首相に日印の架け橋となる夢語る

科学技術振興機構(JST)が主催する国際青少年交流事業「さくらサイエンスプログラム(SSP)」に、インドから参加した若者が2月17日、ニューデリーに集まり、第5回インド同窓会を開催した。会場にはインドの同窓生58名に加え、インド教育省、科学技術庁、インド工科大学、および在印日本大使館からの来賓、家族などを含めて計87名が一堂に会し交流を深めた。

主要各国で開催されている同窓会は、毎回メンバー同志がさらなる飛躍に向けて情報交換を行う場にもなっている。今回のインド同窓会も、自由な雰囲気の中で会話を弾ませ、SSPの体験から育まれた日本との繋がりを強く再認識させる会となった。

参加同窓生の一人であるアシシュ・クマール・ヴェルマさん(17歳)は、2023年7月に実施された高校生招へいプログラム(SSHP)に、インドの高校生代表として参加

した一人だ。彼は、京都大学を訪問時に北川宏京大大学院理学研究科教授から聞いた「科学は物事を暗記することではなく、さまざまな試みを追求し理解して驚くべきものを生み出す芸術である」という言葉が特に胸に響いたと語る。

帰国後の23年9月、彼は自身が取り組んでいた生成AIに関する研究が認められ、モディ首相と直接対話をする機会を得られたことを教えてくれた。その際、SSHPでの訪日体験に加えて、日印の架け橋として活躍する夢をモディ首相に伝えたと熱く語ってくれた。JSTは「今回の同窓会でも、さくらサイエンスプログラム(SSP/SSHP)同窓生らの活躍が、今後の日印間の頭脳循環を促進するための基盤形成に繋がることが大いに期待できる」との強い感触を得ることができた」としている。



さくらサイエンスクラブ「インド同窓会」の集合写真



モディ首相<sup>㊟</sup>に自身の研究を説明するアシシュ・クマール・ヴェルマさん

### 【さくらサイエンスクラブ】

SSPで来日し、交流計画に参加した若らは、修了時にSSPの同窓会組織である、「さくらサイエンスクラブ」のメンバーとして認定される。さくらサイエンスクラブでは、クラブメンバーが継続的に日本と母国の架け橋となり、活躍してもらうために役立つ情報をウェブサイトで提供するとともに、各地で同窓会を実施している。また、メンバー同士もSNSでつながって、自由に交流している。クラブの全世界での会員総数は約3万7000人となり、大きなネットワークを構築している。